

**利用者の安心と職員のやりがいを学びの力でつくる**

(福)神奈川県社会福祉事業団・横須賀老人ホーム (横須賀市)

本会老人福祉施設協議会では、県内高齢者福祉施設職員の実践活動を発表し、学び合うことを目的に「かながわ高齢者福祉研究大会」(以下、大会)を開催しています。横須賀老人ホームでは大会での発表を法人の職員研修に位置付け、毎回エントリーしています。平成28年度の第15回大会では2つの演題で、それぞれ優秀賞を受賞しました。

そのうちの「たかがトロミ?それどトロミなんです」ホームの実態調査からみえたもの」の概要と、職場で職員の学びを支える取り組みを聞きました。

**「水分をとってもらいたい」共通の課題で職員がつながる**

「高齢になると水分をとるのが難しくなり、慢性的な水分不足が心配です。水分補給は栄養士、介護職員の共通の課題ですが、下膳される器にトロミ剤の固まりが散見され、適度なトロミ



栄養士長の三浦さん



計量スプーンは上から「薄い」「中間」「濃い」の濃度トロミの基準は「嚥下リハビリテーション学会嚥下調整色分類2013」を使用。基準を基に、さらに利用者一人ひとりに合ったトロミをつけていく

付けがされていない様子がかうかがえたため、前任の管理栄養士が、介護職員を対象にトロミ付けの実態調査を行いました」と、栄養士長の三浦さんはそのきっかけを説明します。

調査では、基準より濃いトロミ付けがされていることを把握しました。同時に、トロミの濃さの基準があいまいであることを介護職員も気にしていることが分かり、要望を受けて研修を実施しました。現場で無理なく適切なトロミ付けを行う工夫を介護職員と栄養士で提案し合い、実践した結果、濃いトロミ付き水分を作る割合が、研修前の74%から48%に減少しました。「統一の計量スプーンを使用するなど、介護の現場でやりやす

い方法を取り入れたことにより、無理のない実践ができています」と、副介護長の西原千佳さんは話します。

三浦さんは「介護職員と意見交換を重ねて、より良いケアにつなげていきたい」と続けました。

**学びの先にあるもの**

横須賀老人ホームでは、大会での発表に向け、施設内でプレ発表を重ね、内容を高めていくそうです。



施設長の山口さん

「法人内研修部門の学びと併せ、現場では先輩・管理職が課題意識を持って業務に取り組むことを支えます。その関わりは人材の定着にもつながり、現在の離職率は5%以下です。介護職を養成する機関が減少する中、未経験者も活躍できるように、職場で育てる体制が必要と考えています」と施設長の山口雅義さん。

学びを通して培われる専門性と職員のつながりは、利用者の安心、職員のやりがい、ひいては施設の力となっていることが伝わりました。

(企画調整・情報提供担当)

**本紙の平成29年度掲載広告を募集しています!**

本県の福祉機関・団体等の活動や社会福祉の動向をタイムリーに発信し、幅広い福祉実践者を読者層とする「福祉タイムズ」を皆さまの広報活動にぜひお役立て下さい。

〈発行部数〉毎月 21,500部 (平成28年度実績)

〈配布先〉社会福祉法人・福祉施設、地域包括支援センター、相談支援事業者、民生委員児童委員、地区センター、行政福祉関係部署、福祉系学校等約4,400カ所

〈掲載価格(1回あたり、税込)〉

カラー: 32,400円、2色刷: 8,640円~20,520円

【問合せ】企画調整・情報提供担当 ☎045-311-1423 FAX045-312-6302



「福祉タイムズ」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています